心身障害学研究
Vol. 5, No. 2, 1981

養護学校・障害児学級・普通学級における教師の生活および適応に関する実態調査

研究代表者　斎藤義夫

研究分担者　長畑正道　小林重雄
井田範美　津曲裕次
池田由紀江　田中道治
池　弘子

研究協力者　山本晴彦　柴崎正行
高橋　潔　大沢　緑
野口幸弘　川尻敦子
樋田久仁子　椿坂久美子
武蔵博文　平田幸宏
鈴田真理子

筑波大学心身障害学系
知能障害研究室

目　　次

Ⅰ．実態調査目的 …… 1

Ⅱ．調査方法 …… 2
1 対　象 …… 2
2 手続き …… 5
3 期　間 …… 5

Ⅲ．結果と考察（1） …… 6
1 教師の生活環境 …… 6
〔1〕生活構造の時間的分析 …… 6
〔2〕生活の経済的側面 …… 13
〔3〕生活の文化的側面 …… 15
2 教師の悩み …… 16
3 教師の適応性と生きがい …… 26
〔1〕教師の好ましくない特性を中心として …… 26
〔2〕生きがいの種類 …… 26

Ⅳ．結果と考察（2） …… 29
1 障害児教育に対する意識・態度 …… 29
〔1〕障害児教育充実の阻害要因 …… 29
〔2〕障害児教育充実の対策 …… 30
〔3〕障害児学級および養護学校担当の動機 …… 31
〔4〕障害児教育担当の継続あるいはその意志 …… 32

Ⅴ．結　　語 …… 33

調査用紙

Ⅰ．実態調査目的

養護学校教育義務制の実施に相俟って，障害児童・生徒の重度・重複化傾向が一層進んで，障害児教育の現場は質的にも量的にも大きな転換期を迎えようとしている。

斯かる傾向下の教育現場に対応する諸問題は山積しているといえるが，それらの中でも児童・生徒に直接的にかかわり影響を及ぼす教師の問題は大きい。

教師の要因として適性・資質などの基本的な問題もあるが，教師の背景を規定している生活要因ならびに適応などの精神衛生的な要因は，教職活動に及ぼす直接的・間接的な要因になり得るものと考えられる。

以上の認識をふまえて，本研究調査の目的は，公立の障害児学級（小学校・中学校併設の精神遅滞児の学級），養護学校（精神遅滞児），ならびに普通学級（小学校・中学校）の教師を対象に，その生活および適応の状況を比較的にアプローチし，その実態を明らかにし，教師問題を考えていく資とする。

Ⅱ. 調査方法

1 対　象

東京都内の公立小学校，中学校の障害児学級および普通学級の教師並びに養護学校の教師を「昭和54年度東京都特殊学級・学校一覧」（東京都特殊教育研究会編）からランダムに抽出した。その調査人数をTable 1に示す。

Table 1　調査人数

（単位　人）

小学校				中学校				養護学校		合計	
調査すべき人数		調査用紙回収人数		調査すべき人数		調査用紙回収人数		調査すべき人数	調査用紙回収人数	調査すべき人数	調査用紙回収人数
普通	障害	普通	障害	普通	障害	普通	障害				
250	245	51 (20.4)	44 (18.0)	243	204	42 (17.3)	40 (19.6)	242	37 (15.3)	1184	214 (18.1)

注）（　）内は，回収率（%）を示す。

Table 1に示されるように，回収率は，小学校普通学級教師20.4%，障害児学級教師18%，中学校普通学級教師17.3%，障害児学級教師19.6%，養護学校教師15.3%であり，全般的に極めて低率であることが知られる。なお，調査用紙発送は，直接に個人郵送によったが，宛名不明（全て転居先不明である）で返送されたものが24通，無効2通であった。

以下の調査結果の分析では，ほぼ全部は小学校普通学級教師51名，障害児学級教師44名，中学校普通学級教師42名，障害児学級教師40名，養護学校教師37名が対象とされた。

Table 2からTable 7までとFig.1は，いずれも調査用紙のFace欄に記述されたものをまとめたものである。

Table 2　学校種別・年代別人数

（単位　人）

	小・普	小・障	中・普	中・障	養護	計
20代	10	13	3	8	12	46
30代	12	11	4	10	14	51
40代	11	10	18	10	9	58
50代	17	10	17	12	2	58
60代	1	0	0	0	0	1
計	51	44	42	40	37	214

Table 3　学校種別・最終学歴別人数

（単位　人）

	小・普	小・障	中・普	中・障	養　護	計
大　学	34 (66. 7)	26 (59. 1)	28 (66. 7)	28 (70. 0)	33 (89. 2)	149 (69. 6)
短　大	5 (9. 8)	7 (15. 9)	2 (4. 8)	5 (12. 5)	3 (8. 1)	22 (10. 3)
師範学校	9 (17. 6)	7 (15. 9)	1 (2. 4)	2 (5. 0)	0 (0)	19 (8. 9)
高等師範学校	0 (0)	0 (0)	3 (7. 1)	0 (0)	0 (0)	3 (1. 4)
教員養成所	2 (3. 9)	2 (4. 5)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	4 (1. 9)
大学院	0 (0)	0 (0)	1 (2. 4)	2 (5. 0)	1 (2. 7)	4 (1. 9)
その他	1 (2. 0)	2 (4. 5)	7 (16. 7)	3 (7. 5)	0 (0)	13 (6. 1)
計	51 (100)	44 (100)	42 (100)	40 (100)	37 (100)	214 (100)

注）（　）内は，％を示す。

Table 4　学校種別・勤務年数別人数

（単位　人）

	小・普	小・障	中・普	中・障	養　護	計
1 年未満	3 (5. 9)	5 (11. 4)	0 (0)	3 (7. 5)	3 (8. 1)	14 (6. 5)
1 年以上	1 (2. 0)	2 (4. 5)	2 (4. 8)	2 (5. 0)	1 (2. 7)	8 (3. 7)
2 年以上	1 (2. 0)	6 (13. 6)	1 (2. 4)	0 (0)	3 (8. 1)	11 (5. 1)
3 年以上	0 (0)	1 (2. 3)	0 (0)	0 (0)	4 (10. 8)	5 (2. 3)
4 年以上	1 (2. 0)	1 (2. 3)	0 (0)	0 (0)	2 (5. 4)	4 (1. 9)
5 年以上	10 (19. 0)	4 (9. 1)	4 (9. 5)	6 (15. 0)	5 (13. 5)	29 (13. 6)
10 年以上	6 (11. 8)	7 (15. 9)	1 (2. 4)	8 (20. 0)	6 (16. 2)	28 (13. 1)
15 年以上	3 (5. 9)	1 (2. 7)	6 (14. 3)	7 (17. 5)	6 (16. 2)	23 (10. 7)
20 年以上	26 (51. 0)	16 (36. 4)	28 (66. 7)	14 (35. 0)	7 (18. 9)	41 (42. 5)
計	51 (100)	44 (100)	42 (100)	40 (100)	37 (100)	214 (100)

注）（　）内は，％を示す。

Table 5　学校種別・子どもの障害程度別人数

（単位　人）

	小・普	小・障	中・普	中・障	養　護	計
軽　　度	2	0	1	7	0	10
中　　度	0	3	0	1	4	8
重　　度	1	3	0	0	3	7
軽・中・重度	1	20	0	11	9	41
軽・中度	0	3	1	12	2	18
軽・重度	0	2	0	6	0	8
中・重度	0	13	0	2	18	33
計	3	44	2	39	36	125

Table 6　学校種別・子どもの数別人数

（単位　人）

	小・普	小・障	中・普	中・障	養　護	計
5 人 以 下	0	5	0	2	3	10
6 ～ 10 人	0	22	1	16	21	60
11 ～ 15 人	0	10	0	9	11	30
16 ～ 20 人	1	5	0	8	1	15
21 ～ 25 人	6	2	1	1	0	9
26 ～ 30 人	10	0	0	2	0	12
31 ～ 35 人	13	0	0	0	0	13
36 ～ 40 人	12	0	16	0	0	28
41 ～ 45 人	8	0	20	0	0	28
	50	44	38	38	36	205

Table 7　小・中普通学級別・学年別人数

	小・普	中・普	計
低学年 1年	18 (36.7)	11 (34.3)	29 (35.8)
中学年 2年	14 (28.6)	9 (28.2)	23 (28.4)
高学年 3年	17 (34.6)	12 (37.5)	29 (35.8)
計	49 (100)	32 (100)	81 (100)

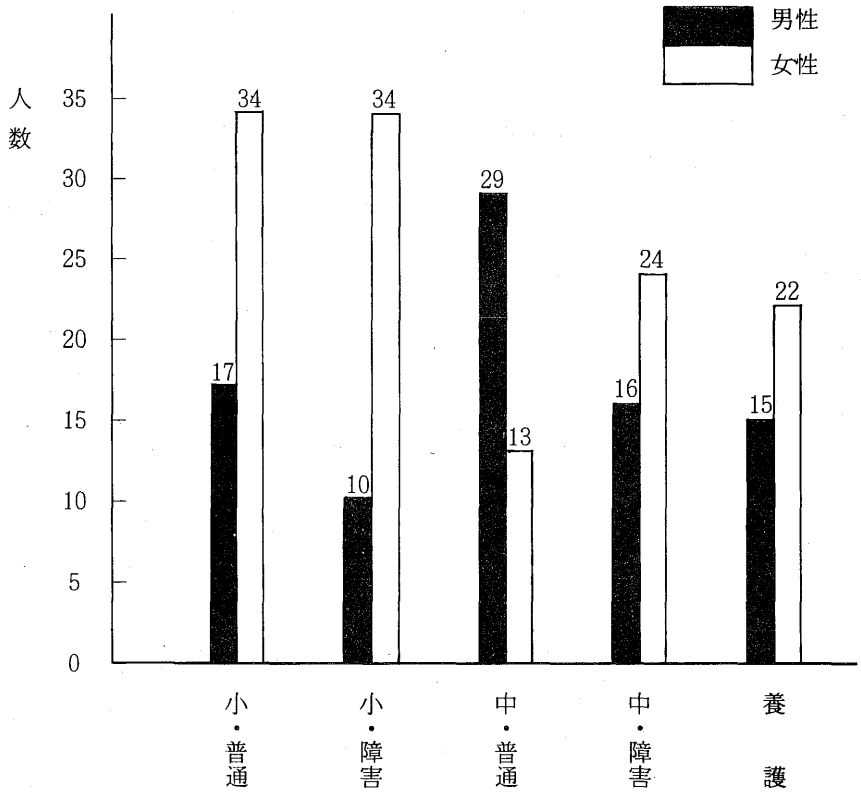


Fig. 1　学校種別・男女別人数

2 手続き

所定のアンケート用紙（附録参照）を個人宛に郵送し，無記名で記述するように依頼した。アンケートの内容に関して，質問総数13であり，質問１～６までは主に生活に関するもの，質問７～９までは適応に関するもの，そして質問10～13までは障害児教育に対する態度に関するものである。それらの内，自由記述によるもの５に対して，選択肢によるもの８である。

なお，最後に障害児教育の体験談について自由に記述する欄を設けた。

3 調査期間

昭和54年11月10日～昭和54年12月12日

Ⅲ．結果と考察（1）

1 教師の生活環境

〔1〕 生活構造の時間的分析

24時間単位の時刻表に記述された平日と休日の2日間の行動について，各々，学校に関する「仕事」（Work），日常生活で習慣化している「常規」（Routine），自分の自由になる「余暇」（Leisure time）の3区分が施された。

まず，はじめに学校種別に生活時限表による平日と休日の3カテゴリーの平均時間をみるとTable 8の通りである。

Table 8　生活時限表による一日の平均時間

			常規		仕事		余暇		調査人数
			分	%	分	%	分	%	（人）
小学校（普）	男	平日	677.4	47.0	515.7	35.8	246.9	17.2	17
		休日	705.9	49.0	0	0	734.1	51.0	17
	女	平日	714.8	49.6	493.5	34.3	231.7	16.1	31
		休日	868.4	60.3	25.4	1.7	546.2	38.0	33
小学校（障）	男	平日	659.0	55.7	593.3	41.2	185.0	13.0	9
		休日	726.7	50.4	76.6	5.3	594.1	41.3	9
	女	平日	720.6	50.0	550.5	38.2	157.1	10.9	33
		休日	890.2	61.8	82.8	5.7	448.4	31.1	33
中学校（普）	男	平日	681.2	47.3	590.3	41.0	168.5	11.7	29
		休日	759.8	52.8	191.7	13.3	488.5	33.9	29
	女	平日	741.9	51.5	545.4	37.9	152.7	10.6	13
		休日	846.5	58.8	171.9	11.9	421.5	29.3	13
中学校（障）	男	平日	696.0	48.3	525.0	36.5	205.0	14.2	16
		休日	638.0	44.3	0	0	713.0	49.5	15
	女	平日	754.0	52.4	423.0	29.4	196.0	13.6	21
		休日	876.0	60.8	0	0	434.0	30.1	22
養護学校	男	平日	749.2	52.0	542.8	37.6	139.9	9.7	14
		休日	870.1	60.4	0	0	578.4	40.1	14
	女	平日	764.5	53.1	526.4	36.5	165.0	11.4	20
		休日	918.9	63.8	0	0	523.7	36.3	20
平日平均			715.8		530.5		184.7		

Table 8 に示されるように，以下の 4 点が顕著な特徴としてとり上げられる。

i 「常規」の時間は「仕事」並びに「余暇」の時間に比べてより多い。それは，「常規」の時間と「余暇」の時間との比較において顕著である。「常規」の時間では，平日，休日ともに男性教師の方がより多い。「余暇」の時間の男女教師の比較では，平日，休日ともに男性教師の方が女性教師に比べてより多いが，特に休日でその傾向が顕著にみられる。

ii 小学校の場合，男女ともに障害児学級教師の方が普通学級教師に比べて，「仕事」の時間をより多く示す。中学校では，「仕事」の時間の比較で男女ともに普通学級教師の方が障害児学級教師に比べてより多い。

iii 「余暇」の時間の比較に関し，小学校普通学級教師の方が障害児学級教師よりも男女共より多い。しかし，中学校ではそれが逆転している。

iv 養護学校教師は，「仕事」，「常規」，「余暇」などの時間についてほぼ中学校普通学級教師のそれらに対応している。

次に以上のような生活時間の内容についてそれらを具体的に示してみよう。

まず「常規」の時間の詳細を Table 9 に示す。

「常規」の時間の大半を睡眠時間がしめることは当然であるが，男女ともにそれは平日約 7 時間，休日約 8 時間である。養護学校男性教師は，休日に約 9 時間強の睡眠時間を示していることが観察される。通勤時間は，男女ともに平均約 1 時間である。養護学校男性教師は約 1 時間30分の通勤時間を示している。食事時間は，男性教師に比べて女性教師の方がより多い。それは平日よりも休日の方がより顕著である。これらは，女性教師において食事の準備，その後仕末などが含まれているからであろう。掃除洗濯の時間は，平日，休日ともに顕著に男性教師に比べて女性教師の方がより多い。休日に男性教師が掃除洗濯の時間を10分〜20分とっていることは特記される。

「常規」の時間に関し学校種別間の差異はほとんど示されない。

次に「仕事」の時間の詳細を Table 10に示す。

Table 10に示されるように，「仕事」の時間について，平日授業時間がほぼ50％前後をしめる。つまり，どの教師も 1 日 9 時間前後の実務を行なっているといえる。小学校障害児学級教師および養護学校教師の授業時間は，他に比しより多い。作業時間および会議時間は養護学校男性教師が最も多く，各々，約40分，約 2 時間である。小学校障害児学級の教師は，男女ともに平日の父母会の時間を示したり，その男性教師の休日の家庭訪問の時間を示したりすることが特記される。なお，中学校障害児学級教師および養護学校教師が休日の仕事の時間を示していないのは，特別の学校の実務がなかったものと思われる。

「余暇」の時間の詳細を示すと，Table 11になる。

「余暇」の時間とは，「仕事」と異なり全く自分の自由になる時間のことである。全体的に男女ともに平日に比べて休日の「余暇」の時間はほぼ 2 〜 3 倍になっている。平日，休日ともに男性教師の方が女性教師に比べてより多くの「余暇」時間をとっている。小学校普通学級教師および中学校

Table 9　常規の内容

	小学校（普）				小学校（障）				中学校（普）				中学校（障）				養護学校			
	男		女		男		女		男		女		男		女		男		女	
	平日分(%)	休日分(%)	平日分(%)	休日分(%)	平日分(%)	休日分(%)	平日分(%)	休日分(%)	平日分(%)	休日分(%)	平日分(%)	休日分(%)	平日分(%)	休日分(%)	平日分(%)	休日分(%)	平日分(%)	休日分(%)	平日分(%)	休日分(%)
睡眠	380.6	491.8	387.4	475.2	426.7	467.8	424.5	513.3	421.2	508.5	416.9	510.0	419	474	398	511	423.1	548.5	423.5	500.0
	(56.2)	(69.7)	(54.2)	(54.7)	(64.8)	(64.4)	(58.9)	(57.7)	(62)	(67)	(56)	(60)	(60)	(74)	(53)	(58)	(56.5)	(63.0)	(55.4)	(54.4)
登下校	131.8	0	99.5	4.2	94.4	60	103.3	10.9	118.5	10.3	93.9	14.6	106	0	103	0	166.9	0	122.0	3.2
	(19.5)	(0)	(13.9)	(0.5)	(14.3)	(8.3)	(14.3)	(1.2)	(17)	(1)	(13)	(2)	(15)	(0)	(14)	(0)	(22.3)	(0)	(16.0)	(0.3)
食事	113.2	135.0	139.8	178.2	88.9	116.7	116.1	164.5	89.7	117.9	93.9	114.6	111	117	128	120	83.8	140.8	115.0	175.8
	(16.7)	(19.1)	(19.6)	(20.5)	(13.5)	(16.1)	(16.1)	(18.5)	(13)	(16)	(13)	(14)	(16)	(19)	(16)	(14)	(11.2)	(16.2)	(15.0)	(19.1)
洗面入浴	44.1	56.2	56.1	87.3	48.9	45.6	49.4	66.7	27.8	46.2	45.8	48.9	48	41	36	55	37.7	60.2	46.5	55.8
	(6.5)	(8.0)	(7.8)	(10.1)	(7.4)	(6.3)	(6.9)	(7.5)	(4)	(6)	(6)	(6)	(7)	(6)	(5)	(6)	(5.0)	(6.9)	(6.1)	(6.1)
掃除洗濯	0.6	20.0	12.6	81.1	0	13.3	16.1	72.4	0	13.5	6.2	70.8	0	0	20	87	2.3	25.4	15.0	76.8
	(0.1)	(2.8)	(1.8)	(9.3)	(0)	(1.8)	(2.2)	(8.1)	(0)	(2)	(1)	(8)	(0)	(0)	(3)	(10)	(0.3)	(2.9)	(2.0)	(8.4)
その他	7.1	2.9	19.4	42.4	0	23.3	11.2	62.4	24.1	63.5	85.4	87.7	12	6	69	103	35.4	95.4	42.5	106.8
	(1.0)	(0.4)	(2.7)	(4.9)	(0)	(3.2)	(1.6)	(7.0)	(4)	(8)	(12)	(10)	(2)	(1)	(9)	(12)	(4.7)	(11.0)	(5.6)	(11.6)
計	677.4	705.9	714.8	868.4	658.9	726.7	720.6	890.2	681.2	759.8	741.9	846.5	696	638	754	876	749.2	870.1	764.5	918.9
	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)

Table 10　仕事の内容

	小学校（普）				小学校（障）				中学校（普）				中学校（障）				養護学校			
	男		女		男		女		男		女		男		女		男		女	
	平日分（%）	休日分（%）	平日分（%）	休日分（%）	平日分（%）	休日分（%）	平日分（%）	休日分（%）	平日分（%）	休日分（%）	平日分（%）	休日分（%）	平日分（%）	休日分（%）	平日分（%）	休日分（%）	平日分（%）	休日分（%）	平日分（%）	休日分（%）
朝礼	18.8	0	26.0	0.6	18.9	0	29.1	7.5	6.9	6.7	6.2	0	20	0	12	0	26.4	0	25.3	0
	(3.6)	(0)	(5.3)	(2.4)	(3.2)	(0)	(5.3)	(9.1)	(1)	(3)	(1)	(0)	(4)	(0)	(3)	(0)	(4.9)	(0)	(4.8)	(0)
授業	252.9	0	238.3	2.4	330.0	0	319.1	0	217.4	6.6	223.1	32.3	176	0	250	0	249.1	0	317.6	0
	(49.0)	(0)	(48.3)	(9.4)	(55.6)	(0)	(57.9)	(0)	(37)	(3)	(41)	(19)	(34)	(0)	(59)	(0)	(45.9)	(0)	(60.3)	(0)
事務整理	22.4	0	31.3	5.8	36.7	0	24.7	1.9	63.8	22.1	49.6	36.9	29	0	17	0	48.2	0	38.8	0
	(4.3)	(0)	(6.3)	(22.8)	(6.2)	(0)	(4.5)	(2.3)	(11)	(11)	(9)	(21)	(6)	(0)	(4)	(0)	(8.9)	(0)	(7,4)	(0)
採点	1.8	0	6.1	0	0	0	0	0	4.1	29.3	3.9	8.9	0	0	0	0	0	0	0	0
	(0.3)	(0)	(1.2)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(1)	(15)	(1)	(5)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)
作業	21.8	0	4.8	0	2.2	0	11.9	16.6	12.9	16.6	4.6	2.3	64	0	11	0	41.8	0	15.9	0
	(4.2)	(0)	(1.0)	(0)	(0.4)	(0)	(2.2)	(20.0)	(2)	(8)	(1)	(1)	(12)	(0)	(3)	(0)	(7.7)	(0)	(3.0)	(0)
教材研究	21.5	0	32.9	0	74.4	43.3	50.6	33.4	45.7	42.1	79.2	43.9	25	0	14	0	30.0	0	13.5	0
	(4.2)	(0)	(6.7)	(0)	(12.5)	(56.5)	(9.2)	(40.3)	(8)	(21)	(15)	(26)	(5)	(0)	(3)	(0)	(5.5)	(0)	(2.6)	(0)
会議	37.1	0	40.6	1.8	53.3	0	43.8	5.6	59.7	15.5	25.8	4.2	74	0	13	0	111.8	0	64.7	0
	(7.2)	(0)	(8.2)	(7.1)	(9.0)	(0)	(8.0)	(6.8)	(10)	(8)	(5)	(2)	(14)	(0)	(3)	(0)	(20.6)	(0)	(12.3)	(0)
父母会	0	0	0	3.0	23.3	0	11.3	0	15.2	0	6.9	0	13	0	6	0	0	0	0	0
	(0)	(0)	(0)	(11.8)	(3.4)	(0)	(2.0)	(0)	(3)	(0)	(1)	(0)	(2)	(0)	(1)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)
家庭訪問	0	0	0	0	0	10.0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(13.1)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(1)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)
その他	139.4	0	113.5	11.8	54.4	23.3	60.0	17.8	164.7	59.0	146.2	43.5	124	0	99	0	35.5	0	50.6	0
	(27.0)	(0)	(23.0)	(46.5)	(9.2)	(20.4)	(10.9)	(21.5)	(28)	(30)	(27)	(25)	(23)	(0)	(23)	(0)	(6.5)	(0)	(9.6)	(0)
計	515.7	0	493.5	25.4	593.2	76.6	550.5	82.8	590.3	197.9	545.4	171.9	525	0	423	0	542.8	0	526.4	0
	(100)	(0)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(0)	(100)	(0)	(100)	(0)	(100)	(0)

Table 11 余 暇 の 時 間

	小学校（普）				小学校（障）				中学校（普）				中学校（障）				養護学校			
	男		女		男		女		男		女		男		女		男		女	
	平日分（%）	休日分（%）	平日分（%）	休日分（%）	平日分（%）	休日分（%）	平日分（%）	休日分（%）	平日分（%）	休日分（%）	平日分（%）	休日分（%）	平日分（%）	休日分（%）	平日分（%）	休日分（%）	平日分（%）	休日分（%）	平日分（%）	休日分（%）
勉強	31.8 (12.9)	69.7 (9.5)	60.6 (26.2)	110.5 (20.2)		41.3 (7.0)	3.9 (2.5)	5.8 (1.3)		11.7 (2)			4 (2)	26 (4)	14 (7)	28 (6)	9.2 (6.6)	82.3 (14.3)	16.0 (9.7)	71.1 (13.6)
読書	20 (8.1)	77.9 (10.6)	13.2 (5.7)	35.2 (6.4)	33.3 (18.0)	48.8 (8.2)	12.6 (8.0)	30.6 (6.8)	10.7 (6)	44.5 (9)	9.2 (6)	26.5 (6)	29 (14)	31 (4)	16 (8)	28 (6)	36.9 (26.4)	62.3 (10.8)	18.0 (10.9)	23.7 (4.5)
新聞	3.2 (1.3)	24.1 (3.3)	4.0 (1.7)	11.5 (2.1)	16.7 (9.1)	36.3 (6.1)	17.1 (10.8)	22.3 (5.0)	11.4 (7)	38.3 (8)	6.2 (4)	24.6 (6)	10 (5)	10 (1)	7 (4)	9 (2)	18.5 (13.2)	22.3 (3.9)	4.0 (2.4)	6.3 (1.2)
ラジオ・テレビ	31.8 (12.9)	149.7 (20.4)	23.9 (10.3)	79.5 (14.6)	32.2 (17.5)	77.5 (13.0)	36.8 (23.3)	98.1 (21.9)	47.9 (28)	141.6 (29)	30.0 (20)	90.4 (21)	46 (22)	146 (20)	37 (19)	50 (12)	34.6 (24.7)	113.1 (19.6)	24.5 (14.8)	50.5 (9.6)
談話	14.7 (6.0)	33.2 (4.5)	8.5 (3.7)	32.3 (5.9)	32.2 (17.5)	75 (12.6)	24.8 (15.8)	44.5 (9.9)	12.8 (8)	18.6 (4)	6.9 (5)	20.8 (5)	9 (4)	16 (2)	23 (12)	26 (6)	13.8 (9.9)	4.6 (0.8)	10.5 (6.4)	6.3 (1.2)
映画								2.9 (0.6)		8.3 (2)				29 (4)		8 (2)				11.1 (2.1)
音楽		10.0 (1.4)	4.8 (2.1)	20.9 (3.8)	3.3 (1.8)		1.6 (1.0)	15.5 (3.5)		2.1 (0)		36.2 (9)	2 (1)	14 (2)		3 (1)			9.0 (5.5)	34.2 (6.5)
スポーツ	22.9 (9.3)	15.3 (2.1)	4.4 (1.9)		6.7 (3.6)		1.9 (1.2)	1.0 (0.2)	1.0 (1)	5.2 (1)		6.9 (2)	2 (1)	20 (3)	4 (2)	21 (5)		4.6 (0.8)		
散歩		10.6 (1.4)		10.9 (2.0)		53.8 (9.1)	1.6 (1.0)			6.2 (1)				2 (1)		5 (1)				
作業	13.5 (5.5)	97.1 (13.2)	10.6 (4.6)	30.3 (5.5)		7.5 (1.3)	6.5 (4.1)	10.6 (2.4)	0.7 (0)	19.7 (4)	4.6 (3)	23.1 (5)	28 (14)	106 (15)	37 (19)	38 (9)		198.5 (34.3)	21.0 (12.7)	28.9 (5.5)
喫茶・飲酒	15.3 (6.2)	10.6 (1.4)	3.2 (1.4)	0.9 (0.2)	16.7 (9.1)	36.3 (6.1)	3.9 (2.5)	13.2 (2.9)	26.6 (16)	11.4 (2)	3.9 (3)	12.3 (3)	3 (2)	4 (1)	10 (5)	5 (1)	2.3 (1.6)			17.4 (3.3)
休息	12.9 (5.2)	8.8 (1.2)	5.5 (2.4)	6.4 (1.2)		3.8 (0.6)	8.7 (5.5)	19.4 (4.3)	32.8 (19)	44.8 (9)	39.2 (26)	44.6 (11)	11 (5)	37 (5)	8 (4)	34 (8)				
日記手紙			1.3 (0.6)	2.7 (0.5)			1.9 (1.2)	5.8 (1.3)		2.1 (0)		2.3 (1)			1 (1)				1.5 (0.9)	6.3 (1.2)
買物		47.6 (6.5)	11.9 (5.1)	42.4 (7.8)	7.8 (4.2)	22.5 (3.8)	7.7 (4.9)	78.4 (17.5)	0.5 (0)	19.0 (4)	22.3 (15)	29.2 (7)	8 (4)	30 (4)	9 (4)	56 (13)		9.2 (1.6)	26.0 (15.8)	80.5 (15.4)
会合（研究会）				4.5 (0.8)	20 (10.8)	15 (2.5)	8.7 (5.5)							138 (19)	20 (10)	48 (11)		9.2 (1.6)		21.1 (4.0)
その他	80.8 (32.7)	179.5 (24.5)	79.8 (34.4)	158.2 (29.0)	15.6 (8.5)	176.3 (29.7)	20 (12.7)	100.3 (22.4)	24.1 (14)	106.2 (22)	30.4 (20)	104.6 (25)	53 (26)	104 (15)	10 (5)	75 (17)	24.6 (17.6)	72.3 (12.5)	34.5 (20.9)	166.3 (31.8)
計	246.9 (100)	734.1 (100)	231.7 (100)	546.2 (100)	184.5 (100)	594.1 (100)	157.7 (100)	448.4 (100)	168.5 (100)	488.4 (100)	152.7 (100)	421.5 (100)	205 (100)	713 (100)	196 (100)	434 (100)	139.9 (100)	578.4 (100)	165 (100)	523.7 (100)

障害児学級教師において，休日の「余暇」時間の男女差が大きく，男性教師の方が女性教師に比べて著しく多くの「余暇」時間を示す。

休日，平日ともにいずれの教師も「余暇」時間のうちでラジオ・テレビのしめる割合が高いこと，小学校障害児学級教師以外，休日，男性教師が2時間前後の視聴時間を示すことなどが特記される。女性教師において，買いもの時間は休日に多くなり，ほぼ1時間前後である。小学校・中学校の障害児学級教師および養護学校教師は，主に休日に平均10分前後の研究会時間を示すことが特徴的である。

〔2〕 生活の経済的側面

教師の給与総月額（昭和54年10月支給分）について，学校種別に表にするとTable 12のようになる。

次に，教職上の教育・研修費の月額について，学校種別にみるとTable 13に示す通りである。

仕事をする上で必要となる教育・研修費の内訳をみると学校種別間に若干異なる傾向が観察される。小学校普通学級教師は，3千円程度から7千円程度までのその範囲に入る者の割合が高く，小学校障害児学級教師もほぼそれに類似の傾向にある。中学校普通学級教師は65％前後の者が5千円から1万円の教育・研修費を必要としている。養護学校教師は，ほぼ60％の者は1万円から2万円の教育・研修費を必要としており，これは他に比べてかなり多いと言える。

ここで，学校種別・年代別に教育・研修費の内訳をみてみよう。それはTable 14に示される。

Table 14は，大きく20代から30代までと40代から50代までの2区分による学校種別間の教育・研

Table 12　昭和54年度10月支給平均給与総額

	小学校（普）	小学校（障）	中学校（普）	中学校（障）	養護学校
10万未満	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
10万以上	10 (22.0)	12 (27.3)	3 (7.3)	4 (10.0)	8 (21.6)
15万以上	7 (14.0)	9 (20.4)	4 (9.7)	9 (22.5)	10 (27.0)
20万以上	12 (24.0)	8 (18.2)	5 (12.2)	10 (25.0)	7 (18.9)
25万以上	10 (20.0)	6 (13.6)	14 (34.1)	6 (15.0)	9 (24.3)
30万以上	9 (18.0)	8 (18.2)	14 (34.1)	9 (22.5)	2 (5.4)
35万以上	2 (4.0)	1 (2.3)	1 (2.4)	2 (5.0)	1 (2.7)
計	50 (100)	44 (100)	41 (100)	40 (100)	37 (100)

注）（　）内は％，数字は人数を表わす。

修費の内訳である。

Table 15は，学校種別・男女別に総支出額の内の教育・修養・娯楽費の内訳を人数及び%で示したものである。

Table 15に示されるように，いずれにおいても教育・修養・娯楽費が15%以上のものの割合が高い。

Table 13　教育・研修費

	小学校（普）	小学校（障）	中学校（普）	中学校（障）	養護学校
3千円未満	6（12.2）	4（9.3）	5 11.9）	7（17.9）	1（2.9）
3千円以上	9（18.4）	14（32.6）	3（7.1）	4（10.3）	2（5.7）
5千円以上	13（26.5）	11（25.6）	12（28.6）	8（20.5）	6（17.1）
7千円以上	6（12.2）	5（11.6）	6（14.3）	3（7.7）	4（11.4）
1万円以上	5（10.2）	5（11.6）	8（19.0）	7（17.9）	14（40.0）
1万5千円以上	6（12.2）	2（4.4）	3（7.1）	4（10.3）	4（11.4）
2万円以上	1（2.0）	0（0）	4（9.5）	2（5.3）	4（11.4）
3万円以上	3（6.1）	2（4.7）	1（2.4）	4（10.3）	0（0）
計	49（100）	43（100）	42（100）	39（100）	35（100）

注）数字は人数，（　）は%を表わす。

Table 14　学校種別，年代別の教育費・研修費

	小学校（普）		小学校（障）		中学校（普）		中学校（障）		養護学校	
	20代～30代	40代～50代*	20代～30代	40代～50代	20代～30代	40代～50代	20代～30代	40代～50代	20代～30代	40代～50代
3千円未満	2（9.1）	4（14.8）	4（16.7）	0（0）	0（0）	5（14.3）	3（17.6）	4（18.2）	1（4.2）	0（0）
3千円以上	6（27.3）	3（11.1）	6（25.0）	8（42.1）	0（0）	3（8.6）	3（17.6）	1（4.5）	2（8.3）	0（0）
5千円以上	9（40.9）	4（14.8）	8（33.3）	3（15.8）	4（57.1）	8（22.9）	3（17.6）	5（22.7）	3（12.5）	3（27.3）
7千円以上	2（9.1）	4（14.8）	1（4.2）	4（21.1）	1（14.3）	5（14.3）	1（5.9）	2（9.1）	4（16.7）	0（0）
1万円以上	2（9.1）	3（11.1）	3（12.5）	2（10.5）	0（0）	8（22.9）	3（17.6）	4（18.2）	9（37.5）	5（45.5）
1万5千円以上	1（4.5）	5（18.5）	1（4.2）	1（5.3）	1（14.3）	2（5.7）	1（5.9）	3（13.6）	2（8.3）	2（18.2）
2万円以上	0（0）	1（3.7）	0（0）	0（0）	1（14.3）	3（8.6）	2（11.8）	0（0）	3（12.5）	1（9.1）
3万円以上	0（0）	3（11.1）	1（4.2）	1（5.3）	0（0）	1（2.9）	1（5.9）	3（13.6）	0（0）	0（0）
計	22（100）	27（100）	24（100）	19（100）	7（100）	35（100）	17（100）	22（100）	24（100）	11（100）

*60代教師1名含む　注）（　）内は%，数字は人数を表わす。

Table 15　総支出のうちの教育・修養・娯楽費

	小学校(普)		小学校(障)		中学校(普)		中学校(障)		養護学校	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
5%未満	0 (0)	4(12.5)	0 (0)	2 (5.7)	3(10.3)	0 (0)	2(13.3)	3(13.6)	0 (0)	0 (0)
5%以上	2(11.7)	9(28.1)	1(10.0)	8(22.8)	3(10.3)	3(25.0)	1 (6.6)	8(36.4)	1 (7.1)	3(15.0)
10%以上	6(35.3)	2 (6.3)	2(20.0)	8(22.8)	12(41.4)	2(16.6)	2(13.3)	5(22.7)	3(21.4)	8(40.0)
15%以上	9(52.9)	17(53.1)	7(70.0)	17(48.6)	11(37.9)	7(58.3)	10(66.6)	6(27.3)	10(71.4)	9(45.0)
20%以上	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
計	17 (100)	32 (100)	10 (100)	35 (100)	29 (100)	12 (100)	15 (100)	22 (100)	14 (100)	20 (100)

注）数字は人数を，（　）内は%を示す。

〔3〕 生活の文化的側面

ここでは，教師の教育・研修費の使途に関連すると考えられる定期購入雑誌および所属研究団体・学会などの内訳を検討してみよう。

まず定期購入の刊行物の内容に関し，学校種別に表にしたのがTable 16である。

ここでは，教師の定期購入雑誌を障害児教育専門誌，幼児教育・保育専門誌，一般教育専門誌，教育に関連するその他専門誌，学術雑誌，一般雑誌，その他の７つに分類した。学校種別にそれらの内訳をみてみよう。

ⅰ　小学校普通学級教師では，教職および指導上参考となる「教育技術」，「教育研修」，「理科教育」などの一般教育専門誌が65%を占める。次に「文芸春秋」，「暮しの手帳」などの一般雑誌が26%強である。

ⅱ　小学校障害児学級教師では，「精薄児研究」，「特殊教育」などの障害児教育専門誌，一般教育専門誌，一般雑誌の順で定期購入者の割合が高い。

ⅲ　中学校普通学級教師の定期購入雑誌の内訳は，ほぼ小学校普通学級教師のそれに準じている。

ⅳ　中学校障害児学級教師では，他に比べてそれが異なることが観察される。一般雑誌，一般教育専門誌，障害児教育専門誌の順でその購入者の割合が高い。

ⅴ　養護学校教師は，ほぼ全分類に属している。障害児教育専門誌，一般教育専門誌，一般雑誌，幼児教育・保育専門誌の順である。特徴的なことは，他に比べて，幼児教育・保育専門誌を購入するものの割合が高いこと，学術雑誌（特殊教育学研究，American Journal of Mental Deficiency）を購入するものの割合が高いことなどである。

次に，教師の所属する研究団体および学会などについて，それらの内訳を示すとTable 17のようになる。

教師の所属する研究団体および学会について，学校種別間の差異に関する主な特徴は次のようである。

ⅰ　小学校普通学級教師および小学校障害児学級教師は，各々，教育指導上関連が深いと考えられる研究団体 ── 区教育研究会，理科研究会，教材・教具開発委員会あるいは都特殊教育研究会，心障担任会などに所属するものの割合が高い。

ii　中学校普通学級教師は，教職関係諸研究団体，普通教育に関連の深い学会，その他の順でその割合が高くなっている。一方，中学校障害児学級教師では，他とやや異なり，障害児教育のあり方などに関する研究諸団体に所属するものの割合が高いことが注目される。

iii　養護学校教師は，普通教育関係および障害児教育関係の両方に所属するものの割合がほぼ同等であり注目される。特に，障害児教育関係の研究会でその専門的な知識を探求するような研究会――日本モンテッソリー治療教育研究会，日本オペラント教育研究会などおよび学会，そして普通教育関係で諸学会――日本教育学会，体育医学学会などである。

2　教師の悩み

ここでは，生活全般にわたる教師の悩みおよびその原因の実態を明らかにしてみよう。教師の悩みおよびその原因について，自分自身に関するもの，家族や家庭に関するもの，学校に関するもの，社会に関するもの，その他に関するものの5カテゴリーに分類した。なお，調査用紙では，各々に関し，強いものから順に自由に記述してもらったが，調査用紙回収人数が少なかったために，以下の分析で順位づけは行なわなかった。また，第5番目のカテゴリーに関しても，記述事項およびその人数が少なかったために分析を省略した。

まずはじめに教師の自分自身に関する悩みの具体的内容をTable 18に示す。

Table 18に示されるように，全体的に，自分自身に関する悩みの原因に関し，「研修時間が少ない」，「健康上の問題」，「指導力・教養がない」をとり上げるものの割合が高い。学校種別間の違いがいくつか観察されるので以下にあげてみよう。

i　小学校普通学級教師では，男女ともに「健康上の問題」が最も多い。次に女性教師が「研修時間が少ない」，「性格の問題」と続くのに対して，男性教師は「性格の問題」，「研修時間が少ない」となる。

ii　小学校障害児学級教師は，全体的な傾向とほぼ類似している。

iii　中学校普通学級教師は，男性教師が「健康上の問題」および「性格の問題」を悩みの原因にするものの割合を高くするのに対して，女性教師は「健康上の問題」，「研修時間が少ない」をとりあげるものが多い。中学校普通学級の女性教師は「性格の問題」をあげるものがいないことに特徴がみられる。

iv　中学校障害児学級教師では，ほぼ全体的な傾向と類似である。男女間の違いはほとんどみられない。

v　養護学校男性教師は，50％以上が「研修時間が少ない」ことをとりあげている。その女性教師は，「健康上の問題」，「研修時間が少ない」，「性格の問題」の順で高い。

普通教育の教師が全般的にみて「健康上の問題」をとりあげるのに対して，障害児教育の教師は，「研修時間が少ない」ことを悩みの原因とする。

次に，家族や家庭に関する悩みおよびその原因について，学校種別にみてみよう。

Table 16　定期購入の刊行物

	小学校（普）	小学校（障）	中学校（普）	中学校（障）	養護学校
障害児教育専門誌	障害児教育（1） 計1（0％）	精薄児研究(14) 障害児教育（8） 発達障害研究（3） 特殊教育（1） 障害児教育（1） 計27（40.3％）		精薄児研究（3） 精薄児教育（2） 月刊障害児教育（1） 障害者問題研究（1） 障害児教育（1） 障害児研究（1） その他（2） 計11（19％）	精薄児研究(14) 月刊障害児教育（8） 発達障害研究（3） 障害者問題研究（2） 言語障害児教育（1） 音声言語障害学（1） 聴覚障害（1） 現場のための精薄教育（1） 計31（35.6％）
幼児教育・保育専門誌	子どものしあわせ（2） 計2（0％）	小さい仲間（1） 乳幼児教育（1） 幼児と保育（1） 計3（4.5％）		子どものしあわせ（1） 母と子（1） 計2（3.4％）	幼児と保育（3） 子どものしあわせ（2） ちいさい仲間（2） 幼児教育（1） 現代幼児教育（1） 計9（9.2％）
一般教育専門誌	教育技術(24) 教育時報(12) 日刊社会科教育（4） 教職研修（4） 初等教育資料（3） 理科教育（3） 考えるこども（2） 国語教育（2） 道徳教育（2） 教育総合技術（2） 生活指導（1） 教育（1） その他(20) 計80（65％）	教育時報（5） 小一教育技術（2） 教育技術（2） 女子体育（1） 歴史地理教育（1） 教育法（1） 学校経営（1） 放送教育（1） その他（3） 計17（25.4％）	歴史教育（4） 中学教育（4） 総合教育技術（3） 学校運営研究（2） 社会科教育（2） 月刊家庭科教育（2） 学校体育（1） 教育時報（1） 英語教育（1） 体育の科学（1） その他（6） 計27（47.4％）	教育時報（3） 教育情報（2） 生活指導（2） 教育実践（1） 教育の森（1） 教育技術（1） 子どもと教育（1） その他（1） 計12（20.7％）	教育（1） 子どもと教育（1） 放送教育（1） 体育科教育（1） 教育の森（1） 生活教育（1） 道徳と教育（1） 教育評論（1） 小一教育技術（1） 授業研究（1） 教育総合技術（1） その他（6） 計17（19.5％）
その他専門誌	サイエンス（2） 児童心理（2） 教育と医学（1） 文部時報（1） 計6（4.9％）	教育と医学（3） 時事英語研究（1） 言語（1） 計5（7.5％）	国文学（1） 言語生活（1） 児童心理（1） 青年心理（1） Voice（1） その他（2） 計7（12.3％）	教育と医学（4） 演劇と教育（1） 安田生命社会事業団年報（1） 計6（10.3％）	児童心理（3） 体育医学（1） 教育心理（1） 計5（5.7％）
学術雑誌			教育学研究（2） 計2（3.5％）		特殊教育学研究（4） AJMD（1） 計5（5.7％）
一般雑誌	文芸春秋（4） 暮しの手帖（2） 古美術（1） ミセス（1） 歴史の旅（1） 季刊邪馬台国（1） その他(23) 計33（26.8％）	文芸春秋（2） 暮しの手帖（2） 婦人公論（1） 歴史読本（1） その他（8） 計14（20.9％）	文芸春秋（4） 暮しの手帖（2） PHP（1） その他(14) 計21（36.8％）	暮しの手帖（4） みんなのねがい（3） 婦人公論（1） 手をつなぐ親たち（1） 文化評論（1） 朝日ジャーナル（1） その他(13) 計24（41.4％）	朝日ジャーナル（3） 文芸春秋（2） 現代（1） 電波科学（1） 毎日ライフ（1） 中央公論（1） その他（8） 計17（19.5％）
その他	英語会話（1） 計1（0％）	NHKラジオ中国語講座（1） 計1（1.5％）		NHKラジオ基礎英語（1） NHKラジオ中国語講座（1） 婦人民主新聞（1） 計3（5.2％）	障全教新聞（1） 独語会話（1） その他（2） 計4（4.6％）
合計	123（100％）	67（100％）	57（100％）	58（100％）	87（100％）

Table 17　研究団体および学会

		小学校（普）	小学校（障）	中学校（普）	中学校（障）	養護学校
普通教育関係	教職	区・都社会科研究会（3） 新宿区教育研究会（3） 社会科初志の会（2） 東京都小学校理科研究会（2） 教材・教具開発委員会（1） その他(25) 計36（76.6％）	女子体育研究会（1） 協子教授組織協議会（1） 都小学校放送教育研究会（1） 都視聴覚教育研究会（1） 計4（14.3％）	区中学教育研究会（9） 都中学教育研究会（3） 社会科指導研究会（1） 全日本音楽研究会（1） その他(11) 計25（69.4％）	全国生活指導研究協議会（1） 全国学校教育相談研究会（1） 計2（7.0％）	放送教育振興会（2） 日本学校体育研究連合会（1） 芸術教育研究会（1） その他（2） 計6（19.9％）
	一般			水曜会（1） 計1（2.8％）		
	学会	社会科教育学会（2） 東学大地理学会（2） 日本地理教育学会（1） 理科教育学会（1） その他（3） 計9（19.1％）		日本地理教育学会（2） 日本地理学会（1） 教育史学会（1） 日本教育史学会（1） 関東教育学会（1） 計6（16.7％）	日本教育学会（2） 教育社会学会（1） 社会学会（1） 生物教育学会（1） 国文学会（1） 計6（22.2％）	国文学会（1） 解釈学会（1） 体育学会（1） 日本教育学会（1） 日本道徳教育学会（1） 体育医学学会（1） その他（3） 計9（29.0％）
障害児教育関係	教職		都特研（3） 区教育相談（3） 区特研（2） 心障担任会（2） 重複障害研究会（2） その他（8） 計20（71.4％）		都特研（4） 日精研（4） 計8（29.6％）	都特研（3） 全特研（1） その他（3） 計7（22.6％）
	一般		日本オペラント教育研究会（1） 言語の発達研究会（1） 少年活動者第9期会（1） 計3（10.7％）		全国障害者問題研究会（4） 養護学校義務化を考える会（1） 特殊教育を考える会（1） 区障害者の福祉と教育をすすめる会（1） 計8（29.6％）	全国障害者問題研究会（2） 日本モンテッソリー治療教育研究会（1） 日本言語障害児教育研究会（1） 日本オペラント教育研究会（1） 計5（16.1％）
	学会		日本特殊教育学会（1） 計1（3.6％）		日本てんかん学会（1） 計1（3.7％）	日本特殊教育学会（4） 計4（12.9％）
その他		国際知能教育学会（1） 東京都小学校図書館協議会（1） 計2（4.3％）		日本Human Relation研（1） 示現会（洋画）（1） 発明学会（1） 16mm映写技術同好会（1） 計4（11 1％）	英会話研修会（1） 全国海外教育事情研究会（1） 計2（7.0％）	
計		47（100％）	28（100％）	36（100％）	27（100％）	31（100％）

Table 18　自分自身に関する悩み

			一 研修・研究時間が少ない、ない	二 経済上の問題	三 指導能力・教養がない	四 健康上の問題	五 結婚問題	六 性格の問題	七 人生観の問題	八 対人関係の問題	九 学歴の問題	十 その他	合計
小（普）	男	頻数	3	0	3	5	0	5	0	0	0	3	19
		%	**16**	**0**	**16**	**26**	**0**	**26**	**0**	**0**	**0**	**16**	**100**
	女	頻数	8	1	4	10	1	5	2	1	0	10	42
		%	**19**	**2**	**10**	**24**	**2**	**12**	**5**	**2**	**0**	**24**	**100**
	計	頻数	11	1	7	15	1	10	2	1	0	13	61
		%	**18**	**2**	**12**	**25**	**2**	**16**	**3**	**2**	**0**	**21**	**100**
小（障）	男	頻数	1	1	1	3	0	1	0	0	0	1	9
		%	**11**	**11**	**11**	**33**	**0**	**11**	**0**	**0**	**0**	**11**	**100**
	女	頻数	14	3	9	8	1	4	5	1	0	1	46
		%	**30**	**7**	**20**	**17**	**2**	**9**	**11**	**2**	**0**	**2**	**100**
	計	頻数	15	4	10	11	1	5	5	1	0	2	55
		%	**27**	**7**	**18**	**20**	**2**	**9**	**9**	**2**	**0**	**4**	**100**
中（普）	男	頻数	5	0	0	7	0	7	2	1	0	5	27
		%	**19**	**0**	**0**	**26**	**0**	**26**	**7**	**4**	**0**	**19**	**100**
	女	頻数	6	1	3	7	0	0	1	0	0	5	23
		%	**26**	**4**	**13**	**30**	**0**	**0**	**4**	**0**	**0**	**22**	**100**
	計	頻数	11	1	3	14	0	7	3	1	0	10	50
		%	**22**	**2**	**6**	**28**	**0**	**14**	**6**	**2**	**0**	**20**	**100**
中（障）	男	頻数	3	1	3	5	0	1	2	0	0	1	16
		%	**19**	**6**	**19**	**31**	**0**	**6**	**13**	**0**	**0**	**6**	**100**
	女	頻数	8	0	4	8	0	1	1	0	0	5	27
		%	**30**	**0**	**15**	**30**	**0**	**3**	**3**	**0**	**0**	**19**	**100**
	計	頻数	11	1	7	13	0	2	3	0	0	7	43
		%	**26**	**2**	**16**	**30**	**0**	**5**	**7**	**0**	**0**	**14**	**100**
養	男	頻数	11	0	4	2	2	0	1	1	0	0	21
		%	**52**	**0**	**19**	**10**	**10**	**0**	**5**	**5**	**0**	**0**	**100**
	女	頻数	9	0	4	11	2	5	2	2	0	3	38
		%	**24**	**0**	**11**	**29**	**6**	**13**	**6**	**6**	**0**	**8**	**100**
	計	頻数	20	0	8	13	4	5	3	3	0	3	59
		%	**40**	**0**	**14**	**22**	**7**	**8**	**5**	**5**	**0**	**5**	**100**
合計		頻数	68	7	35	63	6	29	16	6	0	35	265
		%	**26**	**3**	**13**	**24**	**2**	**11**	**6**	**2**	**0**	**13**	**100**

Table 19に示されるように，どの教師も「子どもの養育・進路」で悩んでいるといえよう。次に，「家族間の愛情問題」，「住宅問題」，「家族の病気・健康の問題」とその悩みが続く。ここでは，学校種別間の差異，男女の差異はほとんどみられない。

学校に関する教師の悩みの詳細をTable 20に示す。

Table 20に示されるように，学校に関する教師の悩みでは，11のサブカテゴリーに分類した。全体的にそれは，「教職員間の非協力，理解不足」，「教育体制・秩序の問題」，「生徒の指導上の問題」，「学校・学級運営上の問題」などの悩みの原因をあげるものの割合が高い。以下に学校種別に主な特徴をとりあげてみよう。

i　小学校普通学級教師は，「教育体制・秩序の問題」，「教職員間の非協力，理解不足」，「研究時間の不足」の順で悩みの原因が高い。その男女の比較では，女性教師の方が男性教師に比べて，「教職員間の非協力，理解不足」をより多くのものが悩みの原因とする。

ii　小学校障害児学級教師では，男女の差異がみられる。男性教師が「学校・学級運営上の問題」を最も多く悩みの原因として訴えているのに対して，女性教師は，「事務仕事の負担」が最も多く，次に「学校・学級運営上の問題」，「教職員間の非協力，理解不足」である。

iii　中学校普通学級教師は，男女ともにほぼ同じ傾向であり，「生徒の指導上の問題」が最も多い。

iv　中学校障害児学級教師は，男女の違いがみられ，男性教師が「教職員間の非協力，理解不足」，「学校・学級運営上の問題」，「教育体制・秩序の問題」を悩みの原因とするものの割合が高いのに対して，女性教師は「教職員間の非協力，理解不足」，「普通学級と障害児学級のいわゆる交流の問題」が多い。

v　養護学校教師は，男性教師が「教職員間の非協力，理解不足」を最も多く訴えるのに対して，女性教師は「研究時間の不足」が多い。

以上のように，学校に関する教師の悩みでは，児童・生徒の指導上の悩みよりもむしろ学校運営上の人間関係の問題をとり上げる傾向にある。これは，特に障害児教育にたずさわる教師に顕著にみられる。

最後に社会に関する教師の悩みの内訳をみてみよう。ここではそのサブカテゴリーとして13の項目を操作的に設定した。Table 21は，学校種別に教師の社会に関する悩みを示したものである。

全体として，「政治に対する問題」をとりあげる教師の割合が高い。次に「障害児・者に対する理解不足」，「社会教育環境の問題」となる。特に障害児学級教師および養護学校教師が男女ともに「障害児・者に対する理解不足」をとり上げていることは注目される。逆に，普通学級教師がそれを全くとりあげていないのは驚きである。障害児学級を併設している学校が多いこと，マスコミによる障害児・者のニュースが多いことなどから考えてみても，さらに教育活動に従事する教師の性格から考えてみてもこの現象について分析・検討する必要があろう。

なお，その他に関する教師の悩みでは，「大地震の不安」，「週休2日制」，「障害児の暴力」などが各々一つずつあった。

Table 19　家族や家庭に関する悩み

			一 住宅問題	二 家庭経済の問題	三 進路 子どもの養育・	四 題 家族間の愛情問	五 康 家族の病気・健	六 間の問題 家族間の対話時	七 その他	合 計
小（普）	男	頻数	1	1	7	3	1	0	4	17
		%	**6**	**6**	**41**	**17**	**6**	**0**	**24**	**100**
	女	頻数	4	0	6	2	4	0	9	25
		%	**16**	**0**	**24**	**8**	**16**	**0**	**26**	**100**
	計	頻数	5	1	13	5	5	0	13	42
		%	**12**	**2**	**31**	**12**	**12**	**0**	**31**	**100**
小（障）	男	頻数	2	0	2	0	0	1	2	6
		%	**29**	**0**	**29**	**0**	**0**	**14**	**28**	**100**
	女	頻数	3	1	6	3	5	3	1	22
		%	**14**	**4**	**27**	**14**	**23**	**14**	**4**	**100**
	計	頻数	5	1	8	3	5	4	3	29
		%	**17**	**3**	**27**	**10**	**17**	**14**	**10**	**100**
中（普）	男	頻数	4	4	6	2	3	2	0	21
		%	**19**	**19**	**29**	**10**	**14**	**10**	**0**	**100**
	女	頻数	2	1	4	3	1	0	3	14
		%	**14**	**7**	**29**	**21**	**7**	**0**	**21**	**100**
	計	頻数	6	5	10	5	4	2	3	35
		%	**17**	**14**	**29**	**14**	**11**	**6**	**9**	**100**
中（障）	男	頻数	1	0	3	0	1	1	0	6
		%	**17**	**0**	**49**	**0**	**17**	**17**	**0**	**100**
	女	頻数	1	0	3	1	3	3	5	16
		%	**6**	**0**	**19**	**6**	**19**	**19**	**31**	**100**
	計	頻数	2	0	6	1	4	4	5	22
		%	**9**	**0**	**27**	**5**	**18**	**18**	**23**	**100**
養	男	頻数	2	2	3	3	2	1	0	13
		%	**15**	**15**	**23**	**23**	**15**	**7**	**0**	**100**
	女	頻数	2	1	5	8	2	2	2	22
		%	**9**	**4**	**23**	**36**	**9**	**9**	**9**	**100**
	計	頻数	4	3	8	11	4	3	2	35
		%	**11**	**8**	**23**	**31**	**11**	**8**	**5**	**100**
合計		頻数	22	10	45	25	22	13	26	163
		%	**13**	**6**	**28**	**15**	**13**	**8**	**16**	**100**

Table 20　学校に関する悩み

			一 上の問題 学校・学級運営	二 材の不足不備 施設・教具・教	三 力・理解不足 教職員間の非協	四 PTAの非協力	五 問題 生徒の指導上の	六 の問題 教育体制・秩序	七 定 身分地位の不安	八 研究時間の不足	九 事務仕事の負担	十 交流の問題	十一 その他	合 計
小（普）	男	頻数	1	2	0	1	1	8	0	4	1	0	9	27
		%	**4**	**7**	**0**	**4**	**4**	**29**	**0**	**15**	**4**	**0**	**33**	**100**
	女	頻数	2	2	13	1	7	9	0	7	3	1	6	51
		%	**4**	**4**	**26**	**2**	**14**	**18**	**0**	**14**	**6**	**2**	**12**	**100**
	計	頻数	3	4	13	2	8	17	0	11	4	1	15	78
		%	**4**	**5**	**16**	**3**	**10**	**22**	**0**	**14**	**5**	**1**	**19**	**100**
小（障）	男	頻数	7	1	1	1	1	1	0	2	1	0	2	17
		%	**44**	**6**	**6**	**6**	**6**	**6**	**0**	**13**	**6**	**0**	**13**	**100**
	女	頻数	11	3	9	2	4	3	2	3	13	8	2	60
		%	**18**	**5**	**15**	**3**	**7**	**5**	**3**	**5**	**22**	**13**	**3**	**100**
	計	頻数	18	4	10	3	5	4	2	5	14	8	4	77
		%	**23**	**5**	**13**	**4**	**7**	**5**	**3**	**7**	**18**	**11**	**5**	**100**
中（普）	男	頻数	4	5	6	0	13	4	3	1	2	0	1	39
		%	**10**	**13**	**15**	**0**	**33**	**10**	**8**	**3**	**5**	**0**	**3**	**100**
	女	頻数	2	2	3	2	5	2	0	3	3	0	0	22
		%	**9**	**9**	**14**	**9**	**23**	**9**	**0**	**14**	**14**	**0**	**0**	**100**
	計	頻数	6	7	9	2	18	6	3	4	5	0	1	61
		%	**10**	**11**	**15**	**3**	**30**	**10**	**5**	**7**	**8**	**0**	**2**	**100**
中（障）	男	頻数	5	1	5	1	2	5	0	0	0	0	2	21
		%	**24**	**5**	**24**	**5**	**9**	**24**	**0**	**0**	**0**	**0**	**9**	**100**
	女	頻数	6	2	10	1	5	5	1	3	3	7	1	44
		%	**14**	**5**	**23**	**2**	**11**	**11**	**2**	**7**	**7**	**16**	**2**	**100**
	計	頻数	11	3	15	2	7	10	1	3	3	7	3	65
		%	**17**	**5**	**23**	**3**	**10**	**15**	**2**	**5**	**5**	**10**	**5**	**100**
養	男	頻数	3	0	5	0	1	3	0	2	2	0	0	16
		%	**19**	**0**	**31**	**0**	**6**	**19**	**0**	**13**	**13**	**0**	**0**	**100**
	女	頻数	2	2	5	2	5	7	1	9	3	0	1	37
		%	**5**	**5**	**14**	**5**	**14**	**19**	**3**	**24**	**8**	**0**	**3**	**100**
	計	頻数	5	2	10	2	6	10	1	11	5	0	1	53
		%	**9**	**4**	**19**	**4**	**11**	**19**	**2**	**21**	**9**	**0**	**2**	**100**
合計		頻数	43	20	57	11	44	47	7	34	31	16	24	334
		%	**13**	**6**	**17**	**3**	**13**	**14**	**2**	**10**	**9**	**4**	**7**	**100**

Table 21　社会に関する悩み

			一 教師の身分や待遇の問題	二 社会生活の不安定や物価の問題	三 障害児者に対する理解不足	四 政治に対する問題	五 社会教育、環境の問題	六 女性差別	七 国際情勢の動向の問題	八 乳幼児の保育の問題	九 福祉の問題	十 公害の問題	十一 住宅問題	十二 税金問題	十三 その他	合計
小（普）	男	頻数	1	1	0	4	7	0	0	0	0	1	0	1	14	29
		%	**3**	**3**	**0**	**14**	**24**	**0**	**0**	**0**	**0**	**3**	**0**	**3**	**48**	**100**
	女	頻数	0	4	0	8	2	0	3	1	0	2	1	1	15	37
		%	**0**	**11**	**0**	**22**	**5**	**0**	**8**	**3**	**0**	**5**	**3**	**3**	**40**	**100**
	計	頻数	1	5	0	12	9	0	3	1	0	3	1	2	29	66
		%	**1**	**7**	**0**	**18**	**13**	**0**	**4**	**1**	**0**	**4**	**1**	**3**	**44**	**100**
小（障）	男	頻数	0	1	1	1	1	0	0	1	1	0	0	0	1	7
		%	**0**	**13**	**13**	**13**	**13**	**0**	**0**	**13**	**13**	**0**	**0**	**0**	**13**	**100**
	女	頻数	1	6	11	6	3	1	3	0	2	1	0	3	5	39
		%	**2**	**14**	**26**	**14**	**7**	**2**	**7**	**0**	**5**	**2**	**0**	**7**	**11**	**100**
	計	頻数	1	7	12	7	4	1	3	1	3	1	0	3	6	49
		%	**2**	**14**	**24**	**14**	**8**	**2**	**6**	**2**	**6**	**2**	**0**	**6**	**13**	**100**
中（普）	男	頻数	1	4	0	7	2	0	0	2	1	0	1	2	2	22
		%	**5**	**18**	**0**	**32**	**9**	**0**	**0**	**9**	**5**	**0**	**5**	**9**	**9**	**100**
	女	頻数	1	1	0	6	5	0	1	0	0	0	0	0	2	16
		%	**6**	**6**	**0**	**38**	**31**	**0**	**6**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**13**	**100**
	計	頻数	2	5	0	13	7	0	1	2	1	0	1	2	4	38
		%	**5**	**13**	**0**	**34**	**18**	**0**	**3**	**5**	**3**	**0**	**3**	**5**	**11**	**100**
中（障）	男	頻数	0	2	8	5	1	0	0	0	2	0	0	0	5	23
		%	**0**	**9**	**35**	**22**	**3**	**0**	**0**	**0**	**9**	**0**	**0**	**0**	**22**	**100**
	女	頻数	0	1	8	5	0	1	0	0	1	0	0	0	7	23
		%	**0**	**4**	**35**	**22**	**0**	**4**	**0**	**0**	**4**	**0**	**0**	**0**	**31**	**100**
	計	頻数	0	3	16	10	1	1	0	0	3	0	0	0	12	46
		%	**0**	**7**	**35**	**21**	**2**	**2**	**0**	**0**	**7**	**0**	**0**	**0**	**26**	**100**
養	男	頻数	2	1	6	1	1	0	1	0	2	0	0	0	0	14
		%	**14**	**7**	**43**	**7**	**7**	**0**	**7**	**0**	**14**	**0**	**0**	**0**	**0**	**100**
	女	頻数	3	2	11	7	5	1	0	0	3	0	0	0	1	33
		%	**9**	**6**	**33**	**21**	**15**	**3**	**0**	**0**	**9**	**0**	**0**	**0**	**3**	**100**
	計	頻数	5	3	17	8	6	1	1	0	5	0	0	0	1	47
		%	**10**	**6**	**36**	**17**	**13**	**2**	**2**	**0**	**10**	**0**	**0**	**0**	**2**	**100**
合計		頻数	9	23	45	50	27	3	8	4	12	4	2	7	52	246
		%	**3**	**9**	**18**	**20**	**11**	**1**	**3**	**2**	**5**	**2**	**0**	**3**	**21**	**100**

3 教師の適応性と生きがい

(1) 教師の好ましくない特性を中心として

ここでは，教師自身の適応性に関して，教師の好ましくない特性をとりあげ，逆の見地から明らかにしてみよう。以下に学校種別に教師が何を教師の好ましくない特性としてみているのか各々選択者の多い順にまとめてみよう。

i　小学校普通学級教師（51名）；①児童愛がない（21名），②指導力がない（18名），③研究意欲がない（17名），④授業不熱心（14名），④責任感がない（14名）

ii　小学校障害児学級教師（43名）；①児童愛がない（18名），②研究意欲がない（12名），③主我的（12名），④指導力がない（11名），⑤授業不熱心（10名）

iii　中学校普通学級教師（42名）；①指導力がない（18名），②責任感がない（17名），③授業不熱心（12名），③短気・感情的（12名），③非協力（12名）

iv　中学校障害児学級教師（36名）；①責任感がない（15名），②指導力がない（12名），②研究意欲がない（12名），④授業不熱心（11名），④児童愛がない（11名）

v　養護学校教師（37名）；①児童愛がない（15名），②陰口・流言（12名），③授業不熱心（11名），③主我的（11名），⑤責任感がない（10名）

以上のように教師自身が教師の好ましくない特性について選択したが，ここでそれらを基礎として教師の適応性に関して教育活動の側面，教職勤務の側面，教養研究の側面，社会性の側面からまとめよう。小学校普通学級教師は，教育活動の側面に関連する教師の好ましくない特性をとり上げるものの割合が高いと言える。中学校普通学級教師は，それに加えて教職勤務の側面が適応性の一指標となってくる。小学校障害児学級教師では教育活動の側面が最も強いが，さらに教養研究の側面および社会性の側面が加わる。

中学校障害児学級教師では，一貫して教育活動の側面が教師の適応性の指標として考えられている。そして養護学校教師では，教育活動の側面および社会性の側面があげられる。

(2) 生きがいの種類

教師の教職上における生きがいの種類およびその順位に関してまとめたのがTable 22である。

Table 22に示されるように，小学校普通学級教師と中学校普通学級教師の教職上の生きがいの種類が若干異なっている。前者が児童の学習指導上の成功を得たり，社会・父母との相互理解を得たりしたときに喜びを感じるのに対して，後者は生徒の何らかの問題行動あるいは性格的問題を改善したり，教職員間の人間関係上の何らかの問題を改善したときに喜びを感じるものの割合が高いと考えられる。小学校障害児学級の教師では，小学校普通学級教師と同様に学習指導上成功を得たときに喜びを感じるものの割合が高いが，さらに研修・研究を十分行なえるときにもそれを感じるものが多いといえよう。中学校障害児学級教師では，中学校普通学級教師とほぼ同様な傾向にあるものの，さらに健康であることに喜びを感じるものが多くいる。養護学校教師は，中学校教師とほと

Table 22　教職上の生きがい

順	位	小学校（普）	小学校（障）	中学校（普）	中学校（障）	養護学校
1	①	学習指導が成功したとき（16人）	学習指導が成功したとき（11人）	生徒指導が成功したとき（18人）	生徒指導が成功したとき（12人）	生徒指導が成功したとき（18人）
	②	生徒指導が成功したとき（11人）	生徒指導が成功したとき（10人）	学習指導が成功したとき（14人）	学習指導が成功したとき（10人）	人間関係における相互理解と連帯感が得られたとき（7人）
	③	人間関係における相互理解と連帯感が得られたとき（9人）	人間関係における相互理解と連帯感が得られたとき（9人）	今日の社会における問題が自分の理想に近づくとき（3人）	健康であること，健康が回復したとき（4人）	学習指導が成功したとき（6人）
2	①	研修・研究が十分行なわれたとき（11人）	社会，父母の理解と協力が得られたとき（13人）	人間関係における相互理解と連帯感が得られたとき（14人）	生徒指導が成功したとき（8人）	人間関係における相互理解と連帯感が得られたとき（10人）
	②	学習指導が成功したとき（8人）	人間関係における相互理解と連帯感が得られたとき（9人）	生徒指導が成功したとき（8人）	人間関係における相互理解と連帯感が得られたとき（5人）	社会，父母の理解と協力が得られたとき（6人）
	③	人間関係における相互理解と連帯感が得られたとき（8人）	学習指導が成功したとき（8人）	学習指導が成功したとき（5人）	研修・研究が十分行なわれたとき（5人）	生徒指導が成功したとき（5人）
3	①	社会，父母の理解と協力が得られたとき（21人）	研修，研究が十分行なわれたとき（10人）	人間関係における相互理解と連帯感が得られたとき（11人）	人間関係における相互理解と連帯感が得られたとき（9人）	社会，父母の理解と協力が得られたとき（10人）
	②	研修・研究が十分行なわれたとき（6人）	学習指導が十分行なわれたとき（7人）	研修・研究が十分行なわれたとき（8人）	社会，父母の理解と協力が得られたとき（7人）	人間関係における相互理解と連帯感が得られたとき（7人）
	③	人間関係における相互理解と連帯感が得られたとき（5人）	人間関係における相互理解と連帯感が得られたとき（6人）	社会，父母の理解と協力が得られたとき（7人）	生徒指導が成功したとき（4人）	研修・研究が十分行なわれたとき（5人）

んど同様な教職上の生きがいの種類を示しているといえよう。

Ⅳ．結果と考察（2）

1 障害児教育に対する意識・態度

ここでは，障害児教育の充実・発展を阻害している要因およびその対策などに関する教師の意識・態度を中心としてまとめる。調査用紙では，上述の2点について自由に記述してもらったが，各々，操作的に7カテゴリー，10カテゴリーにそれらを分類した。

〔1〕 障害児教育充実の阻害要因

その7カテゴリーの内訳は，1無理解・差別，2教師自身の能力，3価値観，4教育諸条件，5教育行政，6その理解あるいは啓蒙の努力不足，7その他である。なお，各カテゴリー設定の基準となった各事例は以下の通りである。

1. 無理解・差別に関するもの……「一般世間の偏見による関心不足」，「自分たちの欲望追求に精一杯でまわりの人たちを思いやるゆとりがないこと」

2. 教師自身の能力に関するもの……「教師の熱意がない」，「専門知識のない教師がいる」，「年とった教師が担任となっている」

3. 価値観に関するもの……「健常者本位の社会のしくみ」，「資本主義の世の中のために能力だけに基づいて人を判断する」，「高学歴志向の世の中であること」

4. 教育条件に関するもの……「教材，教具があまりにも少ない」，「教師は忙しさに1年中追いまわされている」

5. 教育行政に関するもの……「予算が不十分である」

6. 理解や啓蒙への努力に関するもの……「お互いの意志の疎通であるが，とくに関係者がもっと外部に働きかけなければ……」

7. その他に関するもの……「生活の大変さ」

Table 23に示されるように，障害児教育の充実・発展を阻害している要因に関し，ほぼ大半の教師は，無理解・差別をとり上げている。それに続いて，教育行政，教師の能力，価値観などが高くなる。小学校普通学級教師，小学校障害児学級教師，中学校普通学級教師，および養護学校教師などは，大体同じ傾向であり，障害児教育の充実・発展を阻害している要因として無理解・差別，教育行政，教師の能力などをとり上げるものの割合が高い。中学校障害児学級教師では，他に比べて価値観をその要因としてとり上げるものの割合が高い傾向にある。

なお，無記述者の人数に関し，Table 23に示されるように，障害児教育関係教師が10％前後であるのに対して，普通教育関係教師は30％前後である。

Table 23　障害児教育充実の阻害要因

	小（普）	小（障）	中（普）	中（障）	養	合　計
1. 無理解・差別	21（51.2）	28（54.9）	17（51.5）	15（30.6）	18（46.1）	99（46.9）
2. 教師能力	4（9.7）	5（9.8）	4（12.1）	8（16.3）	4（10.2）	25（11.8）
3. 価値観	2（4.8）	4（7.8）	1（3.0）	12（24.4）	5（12.8）	22（10.4）
4. 教育条件	4（9.7）	4（7.8）	3（9.0）	2（4.1）	4（10.2）	17（8.0）
5. 教育行政	9（21.9）	10（19.6）	4（12.1）	6（12.2）	8（20.5）	37（17.5）
6. 理解，努力不足	1（2.4）	0（0）	2（6.0）	5（10.2）	0（0）	8（3.7）
7. その他	0（0）	0（0）	2（6.0）	1（2.0）	0（0）	3（1.4）
合　計	41（100）	51（100）	33（100）	49（100）	39（100）	211（100）
無　記　述	18（35.3）	3（6.8）	12（28.5）	3（7.5）	4（10.8）	40（18.6）
2つ以上記述	8（19.5）	7（15.9）	4（9.5）	9（22.5）	5（13.5）	33（15.4）

注）教字は人数，（　）内数字は％を示す。

〔2〕 障害児教育充実のための対策

その10カテゴリーの内訳は，1個人的問題，2社会的問題，3行政・施策の問題，4教師の問題，5施設・設備の問題，6子どもの問題，7教育内容の問題，8診断・判別の問題，9インテグレーションの問題，10その他である。

カテゴリー設定規準の事例は以下の通りである。

1.　個人的問題……「障害児学級に対してもっと正しい理解がされないと担任者だけの力ではどうにもならない」，「親の障害児に対する正しい理解を得る」

2.　社会的問題……「マスコミによって障害児に対する社会一般の考え方を改善する」，「社会的規模での障害児観の変革」

3.　行政・施策の問題……「重度化にともなう手不足を改善する」，「出口の問題であるので，その人の能力にあった作業所や職場を用意する」

4.　教師の問題……「人材の確保」，「専門的な教師を養成する」

5.　施設・設備の問題……「国立規模の全入制度での施設が必要である」，「各区に独立した校舎を持つこと」

6.　子どもの問題……「子どもの発達の視点を正しく理解する」

7.　教育内容の問題……「説得力のある適切な指導をする」，「障害児にあった幾通りかのカリキュラムの作成をする」

8. 診断・判別の問題……「早期発見」

9. インテグレーションの問題……「健常児，普通児教育を切り離して考え進めることはできない，一体となって行なうべきだ」

10. その他

Table 24　障害児教育充実の対策

	小（普）	小（障）	中（普）	中（障）	養	合　計
1. 個人的問題	1 (2.1)	8 (18.6)	0 (0)	4 (8.3)	4 (11.4)	17 (8.2)
2. 社会的 〃	9 (19.5)	7 (16.2)	11 (31.4)	8 (16.6)	8 (22.8)	43 (20.7)
3. 行政・施策	10 (21.7)	8 (18.6)	6 (17.1)	9 (18.7)	6 (17.1)	39 (18.8)
4. 教　師	9 (19.5)	11 (25.5)	5 (14.2)	11 (22.9)	9 (25.7)	45 (21.7)
5. 施設設備	12 (26.0)	1 (2.3)	8 (22.8)	5 (10.4)	7 (20.0)	33 (15.9)
6. 子ども	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (2.0)	1 (2.8)	2 (0)
7. 教育内容	4 (8.6)	4 (9.3)	4 (11.4)	5 (10.4)	0 (0)	17 (8.2)
8. 診断，判別	1 (2.1)	1 (2.3)	0 (0)	4 (8.3)	0 (0)	6 (2.8)
9. 統合化	0 (0)	3 (6.9)	1 (2.8)	1 (2.0)	0 (0)	5 (2.4)
10. その他	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
合　計	46 (100)	43 (100)	35 (100)	48 (100)	35 (100)	207 (100)
無　記　述	20 (39.2)	1 (2.2)	10 (23.8)	4 (10.0)	4 (10.8)	29 (18.2)
2つ以上記述	12 (23.5)	2 (4.5)	3 (7.1)	10 (2.5)	2 (5.4)	29 (13.5)

注）数字は人数，（　）内数字は％を示す。

Table 24に示されるように，全般的に，教師は，障害児教育充実のための対策として，教師の問題，行政・施策の問題，社会的問題などをとり上げるものの割合が高くなっている。学校種別にみると，小学校普通学級教師および中学校普通学級教師は，いずれも施設・設備の問題，社会的問題，行政・施策の問題などをとり上げるものが多い。小学校障害児学級教師，中学校障害児学級教師，および養護学校教師は，教師の問題をとり上げるものが最も多く，つづいて社会的問題，行政・施策の問題となる。

なお，無記述の人数では，普通教育関係教師は，障害児教育関係教師に比べてより多かった。

〔3〕 障害児学級および養護学校担当の動機

障害児学級および養護学校担当の動機について，小，中障害児学級教師および養護学校教師から

得られた結果をまとめると次のようになる。

◦小学校障害児学級教師（44名）……①やりがいのある仕事だから（12名），②身近かな人がそれに従事していたから（４名），③就職しやすかったので（４名）

◦中学校障害児学級教師（40名）……①やりがいのある仕事だから（９名），②先生先輩にすすめられて（５名），③近所に障害児がいるのをみて（２名）

◦養護学校教師（37名）……①やりがいのある仕事だから（９名），②先生先輩にすすめられて（５名），③身近な人がそれに従事していたから（４名）

以上のように，いずれもその動機として「やりがいのある仕事だから」を選択するものが最も多い。しかし，その割合は，予想に反して低いように思われる。

〔4〕 障害児教育担当の継続あるいはその意志

学校種別に今後障害児学級あるいは養護学校の教師として継続するかあるいはその意志があるか質問した結果をTable 25に示す。

Table 25　障害児教育担任における継続あるいは担当意志の調査人数

（単位　人）

	「は　い」	「いいえ」	「わからない」	無解答	計
小学校（普通）	4 （7.8）	17 （33.3）	16 （31.4）	14 （27.5）	51 （100）
小学校（障害）	33 （7.5）	7 （15.9）	3 （6.8）	1 （2.3）	44 （100）
中学校（普通）	2 （4.8）	16 （38.1）	13 （31.0）	11 （26.2）	42 （100）
中学校（障害）	29 （72.5）	0 （0）	7 （17.5）	4 （10.0）	40 （100）
養　護　学　校	29 （78.4）	1 （2.7）	6 （16.2）	1 （2.7）	37 （100）
計	97 （45.3）	41 （19.2）	45 （21.0）	31 （14.5）	214 （100）

注）（　）内は，％を示す。

Table 25に示されるように，「はい」と答えたものについて，小学校障害児学級，中学校障害児学級および養護学校教師がいずれも70％～80％を示している。それらの大半の教師は，今後継続し

て障害児教育にたずさわる意志のあることを表明しているといえる。一方，小学校普通学級教師および中学校普通学級教師では，「いいえ」と「わからない」と答えたものが約60％～70％となる。また，無解答の人数では，小学校普通学級，中学校普通学級の教師が各々約30％を示している。

以上の結果と先の障害児教育担当の動機との結果を合わせてみると，現在障害児教育にたずさわっている教師の大半は，必ずしも当初明確な動機はなくても障害児教育に従事する過程で何らかの使命感および課題を持ち得たものと考えられる。

V．結　　語

われわれは「教師の生活・適応および教育に対する態度といったものが，実に多面的な要因・条件によって規定されているであろう」という問題意識から本調査研究に取組んできた。

しかしながら，それらの要因・条件の分析的考察は今後さらに時間をかけて慎重に精査されるべきであるという結論に達し，本調査研究では，結果と事実に即した考察を詳述することにとどめ，展開的に「推論」及び「べき論」を排除する形でまとめた。

障害教育担当教師・普通教育担当教師の問題を学校種別による教師集団の比較で結果を把握することによって，さらに障害教育を担当する教師の問題を考えていく上で示唆的な資料を検討していきたいと考えている。

本調査研究の対象者のサンプリングは教師全体の傾向を把握していく上で，必ずしも十分な資料を提供しているとはいえないが，実態の一端をかなり具体的かつ詳細に把握できた。

このことは，調査対象となられた教師の方々が，本調査研究の趣旨をよく理解され，協力的に回答を寄せられた結果であると考える。

これらの方々のご厚意に報いるためにも，われわれは今後「教師の問題」の追求に一層精力的に取組んでいきたい。

調 査 用 紙

昭和54年11月10日

普通学級担任殿
障害児学級担任殿
養護学校学級担任殿

茨城県新治郡桜村天王台１－１－１
筑波大学心身障害学系知能障害研究室
代表　教授　斉　藤　義　夫

普通学級・障害児学級・養護学校における教師の生活および適応に関する調査のお願い

秋色深まりゆくこの頃ですが，貴先生におかれましてはご健勝にお過ごしのことと拝察いたします。

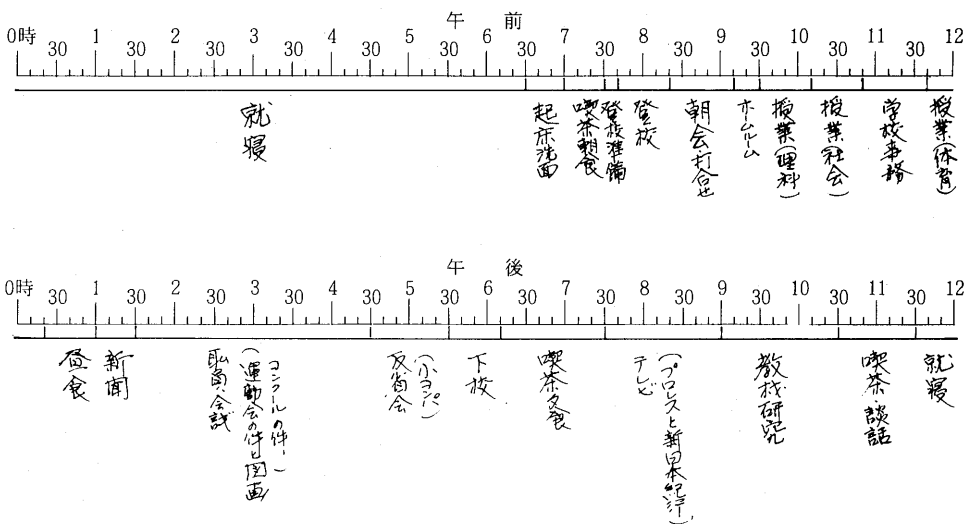
さてこの度は，筑波大学プロジェクト研究の一環として上記テーマにもとづく調査を実施することになりました。

本調査の目的は，精神薄弱児教育に従事する教師の生活および適応面における実状をさぐり，教育諸条件の整備，教員養成などの研究資料に供するものです。従って，精神薄弱児教育担当の先生方はもとより比較的立場から普通学級担当の先生方にもご協力をお願いすることになりました。調査対象は，東京都公立学校教員の方々で約1,000名を無作為に抽出しましたが，貴先生が抽出されましたことをご諒承下さい。回答は無記名のまま同封の返信用封筒にておそれ入りますが12月10日頃までに下記のところまでご返送下さい。

〒305　茨城県新治郡桜村天王台１－１－１
筑波大学心身障害学系知能障害研究室（斉藤気付）

※　記入上の注意

- Face 1 ～ 9 までは，該当する項目（数字）に○印をつけてください。なお，Face 7 については障害児教育担当の先生のみ記入してください。
- Face 9 では，障害児教育担当の先生のみ記入してください。（　）内は，該当する子どもの数を記入してください。
- 質問1は，該当する日を記入し，記入例を参考にしてください。
- 調査に関する問合せは，筑波大学心身障害学系井田，田中（Tel. 0298－53－4583）および池（Tel. 0298－53－4716）へお願いします。
- 集計はできませんが本調査内容には記入できないご意見や体験などがある場合は最後に記入してください。
- 質問１の記入例



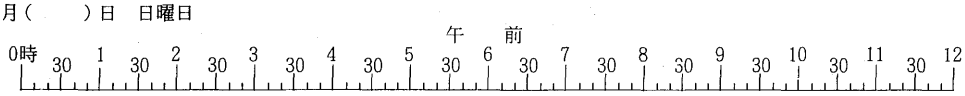
普通学級・障害児学級・養護学校における教師の生活
および適応に関する調査

Face 1	記入職名	1 小学校（普通）教諭　2 中学校（普通）教諭　3 小学校（障害）教諭 4 中学校（障害）教諭　5 養護学校教諭
Face 2	性	1 男　2 女
Face 3	年　令	1 20代　2 30代　3 40代　4 50代　5 60代
Face 4	既婚・独身	1 既婚（家族数　　人）　2 独身
Face 5	最終学歴	1 大学　2 短大　3 師範学校　4 高等師範学校　5 養成所 6 大学院　7 その他（　　）
Face 6	勤務年数	1 1年未満　2 1年以上　3 2年以上　4 3年以上　5 4年以上 6 5年以上　7 10年以上　8 15年以上　9 20年以上
Face 7	担任クラスの子どもの障害の程度	1 軽度　2 中度　3 重度　4 軽・中・重度　5 軽・中度 6 軽・重度　7 中・重度
Face 8	担任クラスの子どもの数	1 5人以下　2 6～10人　3 11～15人　4 16～20人　5 21～25人 6 26～30人　7 31～35人　8 36～40人　9 41～45人
Face 9	担任クラスの子どもの家庭の問題状況	1 母子家庭　2 父子家庭　3 生活保護家庭　4 その他（　　）
Face 10	普通担任のクラス	1 （中1）　2 （中2）　3 （中3）

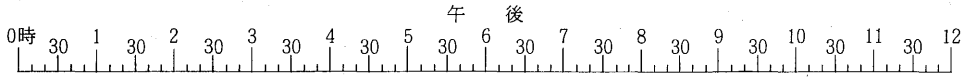
質問1　あなたは，昭和54年11月18日（日）～12月2日（日）までのうちの木曜日および日曜日の2日間どのような生活をされましたか。次の生活時限記録表に御記入下さい。

11月（　　）日　日曜日

午　前

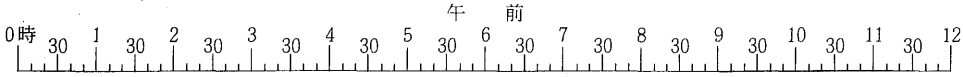


午　後

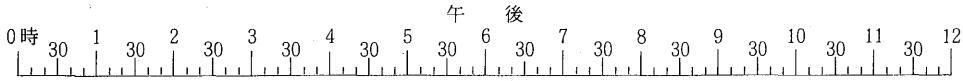


11月（　　）日　木曜日

午　前



午　後



質問2　昭和54年10月に支給された税込本俸（調整額含）はいくらですか。

1　10万円未満　2　10万円以上　3　15万円以上　4　20万円以上　5　25万円以上
6　30万以上　7　35万円以上

質問3　仕事をする上で必要としている教育・研修費は月大体いくらですか。

1　3千円未満　2　3千円以上　3　5千円以上　4　7千円以上　5　1万円以上
6　1万5千円以上　7　2万円以上　8　3万円以上

質問4　定期に購入されている刊行物がありましたら自由に記述してください。

質問5　総支出額のうち教育・修養・娯楽費は大体何パーセントをしめていますか。

1　5％未満　2　5％以上　3　10％以上　4　15％以上　4　20％以上

質問6　あなたの所属している研究団体や学会がありましたらその名称を記入してください。

質問7　現在，あなたが悩んだり，不満に思っていたりする問題について，強い順に以下に記入してください。三つすべてお答えくださってもよろしいです。

自分自身に関するもの	1	2	3
家族や家庭に関するもの	1	2	3
学校に関するもの	1	2	3
社会に関するもの	1	2	3
その他に関するもの	1	2	3

質問8　あなたは，問題の教師の特性についてどのようにお考えですか。以下の項目の中から三つだけ選択してその記号を記入してください。

ア　指導力がない　　ク　児童愛がない　　ソ　陰口・流言
イ　授業不熱心　　ケ　計画性がない　　タ　不正直
ウ　教養・常識不足　　コ　責任感がない　　チ　言語不良
エ　短気・感情的　　サ　事務的不手際　　ツ　運動ぎらい
オ　酒ぐせがわるい　　シ　保守的　　テ　その他（　　）
カ　非協力的　　ス　研究意欲がない
キ　身だしなみがわるい　　セ　主我的

1	2	3

質問9　現在，あなたが教職において生きがいと感じるものは何ですか。以下の項目の中から強いものから順にその記号を三つ記入してください。

ア　学習指導が成功したとき
イ　生徒指導が成功したとき
ウ　指導技術が向上したとき
エ　自分の性格の短所を克服したとき
オ　健康であること，健康が回復したとき
カ　人間関係における相互理解と連帯感が得られたとき
キ　教職に対する評価が高められたとき
ク　職務・勤務が改善されたとき
ケ　学校運営が改善されたとき
コ　研修・研究が十分行なわれたとき
サ　社会，父母の理解と協力が得られたとき
シ　私生活上の問題が解決したとき
ス　今日の社会における問題が自分の理想に近づくとき

1	2	3

質問10　障害児教育の充実のためにどのような対策が必要だと思いますか。もっともと思うものを一つだけ簡潔に記入してください。

質問11　障害児教育の充実・発展を阻害している要因は何だとお考えですか。

質問12　障害児教育を選ばれたのは，どのような動機からですか。以下の項目の中から一つだけ選択してください。該当する項目（数字）に○印をつけてください。

ア　身近な人が障害児教育の仕事に従事していたので
イ　小中高大学などの先生または先輩にすすめられて
ウ　ボランティア活動によって
エ　親族に障害児がいる（いた）ので
オ　近所に障害児がいるのをみて
カ　自分自身が障害者であるので
キ　自分の力に合う仕事だから
ク　マスメディアを通じて
ケ　なんとなく
コ　特定の免許を必要としないから
サ　やりがいのある仕事だから
シ　就職しやすかったので
ス　何もしらずに
ソ　その他
（　　）

質問13　あなたは今後障害児教育を継続してやりたいですか。（普通学級担任の先生におかれましては障害児教育の担任としてやりたいですか。）

1　はい　　2　いいえ　　3　わからない

以上のほか障害児教育の体験（失敗したこと，成功したこと）など記入下さい。

ご協力ありがとうございました